

QND Ver.9.1→QAW Ver.3.5 ～乗換手順書～

クオリティ株式会社

<http://www.quality.co.jp/>

最終更新日:2009/03/27

文書番号:QND91→QAW35-N-200903

対象読者:QND管理者

1. はじめに	2
2. 乗換作業の流れ	3
3. 乗換前の準備作業	3
4. マスターサーバの乗換	7
5. コンソールの乗換	14
6. スレーブサーバの乗換	18
7. QNDホストの乗換	21
8. 付録	24

注意事項

- 本手順書は、QND Ver. 9. 1から、QAW Ver. 3. 5へ移行する際の手順と注意点について説明したものです。
QND Ver. 9. 1 SP1、QND Ver. 9. 3、QND Ver. 9. 3 SP1、QND Ver. 9. 4、QND Ver. 9. 4 SP1、QND Ver. 9. 5からQAW Ver. 3. 5へ移行する場合も、手順は同様です。
本文中の「9. 1」を、ご利用のQNDのバージョンに読み替えてご利用ください。

1. はじめに

本章では、本手順書での基本用語と、QAW Ver. 3.5へ移行するために必要な動作環境について説明します。

1-1 基本用語

本手順書で使用する用語を次の表に示します。

用語	説明
QNDサーバ	QAW/QND管理下のクライアントPCの情報を収集するサーバプログラム (QAWの場合も、サーバプログラムはQNDサーバと呼ぶ)
スレーブサーバ	管理するPCが多く、QNDサーバの負荷を軽減する場合や、ネットワークがセグメントで分かれている場合に設置するサーバ (本手順書内では、QNDサーバのデータをバックアップするために設置するレプリケーションサーバも、スレーブサーバに含まれるものとする)
QAW	QND PlusのアプリケーションDB機能を強化し、アセット管理とライセンスコントロールができるパッケージ
QAWコンソール	QNDサーバに接続し、クライアントPCの情報収集・管理、収集した情報の管理を行うためのコンソール
QNDホスト	QNDサーバで管理しているPC
QNDエージェント	QAWコンソールで作成したタスクをQNDホスト側で実行するためのプログラム 参照先：『QAW Ver. 3.4 SP1 -運用編-』「I 7-3.タスクを実行する タスクをプル実行する」
クライアント	QAW/QND管理下でないPC
乗換 (のりかえ)	QNDからQAWへの移行

1-2 動作環境

乗換を実行するPCは、QAW Ver. 3.5の動作環境を満たしている必要があります。

QAW Ver. 3.5の動作環境については、『QAW Ver. 3.5 -追補マニュアル-』「Part1 2 動作環境」を参照してください。

なお、QNDサーバをバージョンアップするPC、およびコンソールをバージョンアップしてViperコンソールを新規インストールするPCには、.NET Framework2.0以上がインストールされている必要があります。

1-3 オプション製品について

QAW Ver. 3.5への乗換後は、QAW Ver. 3.5に対応しているオプション製品をご利用ください。

QAW Ver. 3.5に対応しているオプション製品については、弊社Webページの「QAW Ver. 3.5 対応オプション製品」をご覧ください。

(http://www.quality.co.jp/products/QAW/QAW_option.html)

2. 乗換作業の流れ

本章では、乗換作業の流れについて説明します。
次の順序で乗換を実行します。

- ・「3. 乗換前の準備作業」(P. 3)
- ・「4. マスターサーバの乗換」(P. 7)
- ・「5. コンソールの乗換」(P. 14)
- ・「6. スレーブサーバの乗換」(P. 18)
- ・「7. QNDホストの乗換」(P. 21)

注意：乗換の順序

乗換は本手順書で案内している順序で進めてください。
また、必ず各PC（マスターサーバ/コンソール/スレーブサーバ/QNDホスト）すべての乗換を実行してください。順序どおり乗換を実行していない、または一部PCが乗換を実行していない場合、運用上さまざまな問題が発生する恐れがあります。発生する問題については、「8-1 乗換が適切に実行されていないとき」(P. 24)を参照してください。

3. 乗換前の準備作業

本章では、マスターサーバ、スレーブサーバ、コンソール、QNDホストの乗換を実施する前の準備作業について説明します。

準備作業は次の手順で実施します。

- ・「3-1 ポリシ設定の解除」(P. 3)
- ・「3-2 動作保証外OSのホストの対処」(P. 3)
- ・「3-3 スレーブサーバのデータ転送の停止」(P. 4)
- ・「3-4 マスターサーバの停止とデータバックアップ」(P. 4)
- ・「3-5 スレーブサーバの停止とデータバックアップ」(P. 6)
- ・「3-6 コンソールのバックアップ」(P. 7)

以下、詳述します。

3-1 ポリシ設定の解除

本節では、ポリシ設定の解除について説明します。

QAW Ver. 3.5では、ポリシを設定する機能が廃止されました。QNDホストにポリシ設定を行っている場合は、ポリシ解除のタスクを実行してから、QAW Ver. 3.5への乗換を実施してください。

ポリシ設定の解除については、お手元の『QND』マニュアルを参照してください。

3-2 動作保証外OSのホストの対処

本節では、動作保証外OSのホストの対処について説明します。

QAW Ver. 3.5では、クライアントプログラムの動作保証OSからWindows 95が除外されました。

QNDサーバをVer. 3.5にバージョンアップすると、OSがWindows 95のQNDホストは管理できなくなります。

QAW Ver. 3.5のクライアントプログラムは、Windows 95で動作しません。したがって、タスク実行、QNDサーバとの通信等も行えなくなります。

OSがWindows 95のQNDホストが存在する場合は、乗換を実施する前にクライアントプログラムをアンインストールしてください。

クライアントプログラムのアンインストールについては、お手元の『QND』マニュアルを参照してください。

クライアントプログラムのアンインストールには、クライアントプログラムと同じバージョンのアンインストールプログラムが必要です。
アンインストール用プログラムは、マスターサーバのインストールディレクトリ内に保存されています。マスターサーバをバージョンアップすると、過去のバージョンのアンインストール用プログラムは失われます。

Windows 95のQNDホストからクライアントプログラムをアンインストールする前に、QNDサーバをVer. 3.5へバージョンアップした場合は、弊社販売パートナーにお問い合わせください。

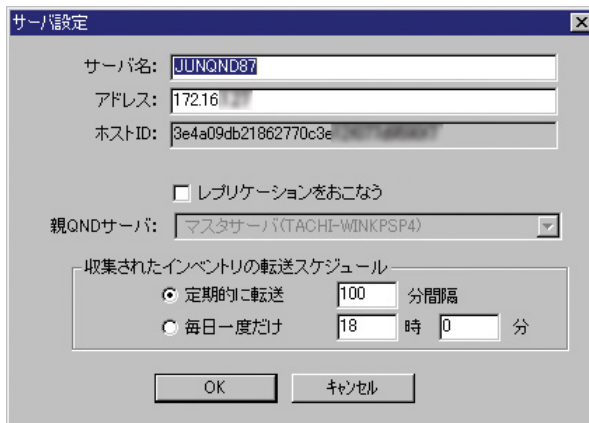
3-3 スレーブサーバのデータ転送の停止

本節では、スレーブサーバからマスターサーバへのデータ転送を停止する手順について説明します。データ転送を停止していない状態で、QAW Ver. 3.5への乗換を実施すると、トラブルが発生する可能性があります。スレーブサーバのデータ転送停止は、必ず行ってください。

手順1 QNDコンソールを起動します。

手順2 グループ/フィルター一覧で、スレーブサーバを右クリックして表示されるコンテキストメニューから、[プロパティ (P)...] を選択します。

☑ 「サーバ設定」が表示されます。



手順3 [収集されたインベントリの転送スケジュール] の [定期的な転送] をクリックしてオンにし、入力欄に“0”と入力します。

手順4 [OK] ボタンをクリックします。

☑ 「サーバ設定」が閉じます。

以上で、スレーブサーバからマスターサーバへのデータ転送の停止は終了です。

3-4 マスターサーバの停止とデータバックアップ

本節では、マスターサーバのサービスを停止しデータのバックアップを行う手順について説明します。マスターサーバの乗換を実施する前に必ず実行してください。

マスターサーバの停止手順

マスターサーバのサービスを停止します。




マスターサーバのサービスが稼働している状態で、QAW Ver. 3.5への乗換やデータのバックアップを実施すると、トラブルが発生する可能性があります。マスターサーバのサービス停止は、必ず行ってください。

以下の手順にしたがって、マスターサーバを停止します。

- 手順1 マスターサーバPCに、管理者アカウントでログオンします。
- 手順2 Windowsのスタートメニューから、[すべてのプログラム(P)] - [管理ツール] - [サービス] の順に選択します。
 「サービス」が表示されます。
- 手順3 [Application Integrate Server]を右クリックして表示されるコンテキストメニューから、[停止(0)] を選択します。
- 手順4 「サービス」を閉じます。
 以上で、マスターサーバのサービス停止は終了です。

データのバックアップ

次の表にしたがって、マスターサーバの各ディレクトリをバックアップします。

バックアップ対象	バックアップするディレクトリ
[QNDPlus] ディレクトリ	C:\Program Files\QNDPlusのバックアップを実行  注意：インストール先を変更している場合 インストール先を変更している場合は、変更先のディレクトリをバックアップしてください。  ヒント：元の場所に戻すファイル 乗換実行後、次の2ファイルを元の場所に戻す必要があります。 ・ %QNDPlus%\bin\Rulea7.csv ・ %QNDPlus%\etc\multicast.ini
[ApInServ] ディレクトリ	%Windir%\ApInServのバックアップを実行  注意：ディレクトリサーバのインストール先を変更している場合 ディレクトリサーバのインストール先を変更した場合、ディレクトリサーバ本体は %Windir%\ApInServ にインストールされます。ただし、運用時に収集したデータ (変更しなかった場合は %Windir%\ApInServ\dirsrv\db に保存されています) は、変更先のディレクトリに保存されます。 ディレクトリサーバのインストール先を変更している場合は、データ保存先のディレクトリも併せてバックアップしてください。

注意：設定パスがデフォルトでない場合

メニューバーから、[ツール(T)] - [サーバ固有の設定(S)...] の順に選択すると表示される 「サーバ固有の設定」の各タブで、ファイルの保存先パスを変更している場合は、それらのディレクトリを別途バックアップする必要があります。

設定変更を行っている場合は、次の表を参考にバックアップを行ってください。

タブ名	設定項目
エージェント	QNDエージェントを共有するディレクトリ
インベントリ	保存用QNDインベントリディレクトリ
サーバログ	ディレクトリ名
タスクログ	タスクログ移動先ディレクトリ
CSV設定	CSVファイル保存用ディレクトリ名
外部DB設定	CSVファイル保存用ディレクトリ名

3-5 スレーブサーバの停止とデータバックアップ

本節では、スレーブサーバのサービスを停止し、データのバックアップを行う手順について説明します。スレーブサーバの乗換を実施する前に必ず実行してください。

スレーブサーバの停止手順

スレーブサーバのサービスを停止します。

スレーブサーバのサービスが稼働している状態で、QAW Ver. 3.5への乗換やデータのバックアップを実施すると、トラブルが発生する可能性があります。スレーブサーバのサービス停止は、必ず行ってください。

以下の手順にしたがって、スレーブサーバを停止します。

- 手順1 スレーブサーバPCに、管理者アカウントにてログオンします。
- 手順2 Windowsのスタートメニューから、[すべてのプログラム(P)] - [管理ツール] - [サービス] をクリックします。
☞ 「サービス」が表示されます。
- 手順3 [Application Integrate Server]を右クリックして表示されるコンテキストメニューから、[停止(O)] を選択します。
- 手順4 ☞ 「サービス」を閉じます。
以上で、スレーブサーバのサービス停止は終了です。

データのバックアップ

次の表にしたがってスレーブサーバの各ファイルのバックアップを実行します。

バックアップ対象	バックアップするディレクトリ
スレーブサーバのインストールディレクトリ	QND Ver. 9.1のスレーブサーバのインストール先に指定したディレクトリのバックアップを実行
[ApInServ] ディレクトリ	%Windir%\¥ApInServ¥のバックアップを実行 スレーブサーバでは、ディレクトリサーバのインストール先は変更不可

⚠ 注意：設定パスがデフォルトでない場合

メニューバーから、[ツール(T)] - [サーバ固有の設定(S)...] の順に選択すると表示される ☞ 「サーバ固有の設定」の各タブで、ファイルの保存先パスを変更している場合は、それらのディレクトリを別途バックアップする必要があります。


設定変更を行っている場合は、次の表を参考にバックアップを行ってください。

タブ名	設定項目
エージェント	QNDエージェントを共有するディレクトリ
インベントリ	保存用QNDインベントリディレクトリ
サーバログ	ディレクトリ名
タスクログ	タスクログ移動先ディレクトリ
CSV設定	CSVファイル保存用ディレクトリ名
外部DB設定	CSVファイル保存用ディレクトリ名

3-6 コンソールのバックアップ

本節では、コンソールプログラムのバックアップについて説明します。

QND・QIV・RC・NetSkipperの各コンソールをマスターサーバと別PCで運用している場合、次の表を参考に、ディレクトリをバックアップします。

バックアップ対象	バックアップするディレクトリ
[QNDPlus] ディレクトリ	C:\Program Files\QNDPlusのバックアップを実行  注意：インストール先を変更している場合 インストール先を変更している場合は、変更先のディレクトリをバックアップしてください。
[ApInServ] ディレクトリ	(Windowsディレクトリ) \ApInServ\NetSkipperのバックアップを実行

4. マスターサーバの乗換

本章では、マスターサーバの乗換方法について説明します。
マスターサーバの乗換作業は、次の順序で実行します。

- ・「4-1 マスターサーバの乗換」(P. 7)
- ・「4-2 乗換後の確認」(P. 12)
- ・「4-3 QAWライセンスの登録」(P. 13)

以下、詳述します。

4-1 マスターサーバの乗換

本節では、マスターサーバをQND Ver. 9.1からQAW Ver. 3.5へ乗換する手順を説明します。

以下の手順を実行することで、タスクやインベントリデータ、アプリケーションDBの設定が、QAW用に自動的に変換されます。

なお、マスターサーバを乗換するPCには、.NET Framework2.0以上がインストールされている必要があります。

手順1 マスターサーバをインストールしているPCに、管理者アカウントでログオンします。

手順2 QAW Ver. 3.5の製品CD（以下製品CD）をセットします。

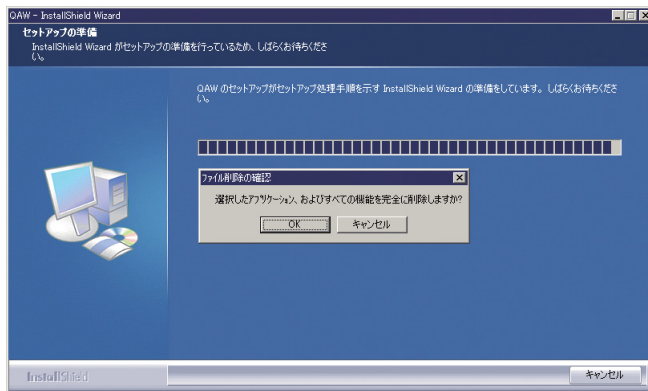
「Quality Product Menu」が表示されます。

表示されない場合は、製品CD内のautorun.exeを実行します。

手順3 [Quality Asset Watcher] が選択されていることを確認し、[QAW Server Setup] ボタンをクリックします。



インストーラが起動して「ファイル削除の確認」が表示されます。

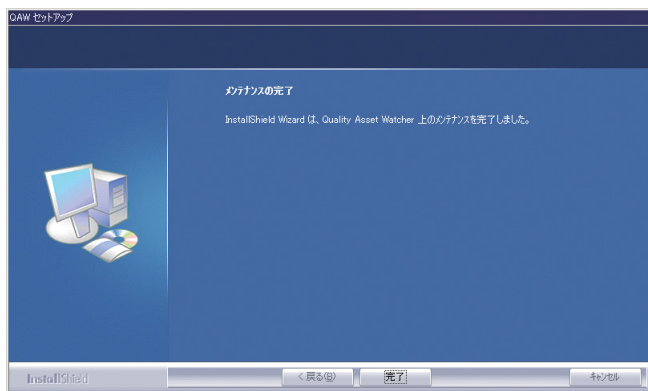


注意 : QND Ver. 9.1 で管理していたデータ

乗換時には、QND Ver. 9.1 のアンインストールを実行しますが、QND ホストやタスクなどの情報は削除されません。手順にしたがって乗換を完了すると、QND Ver. 9.1 で運用していた情報を、引き続き利用できます。

手順4 [OK] ボタンをクリックします。

QND Ver. 9.1 がアンインストールされ、「メンテナンスの完了」が表示されます。

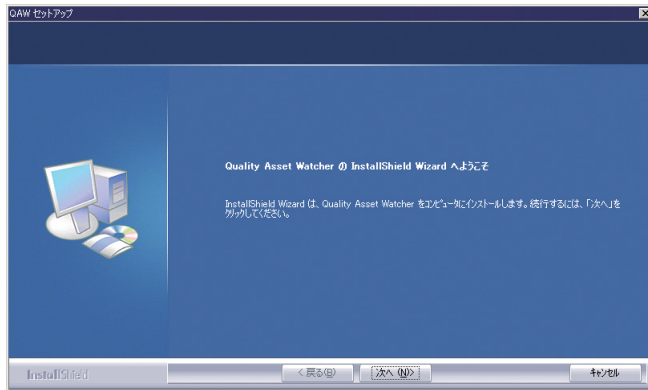


手順5 [完了] ボタンをクリックします。

「メンテナンスの完了」が閉じ、「Quality Product Menu」に戻ります。
表示されない場合は、製品CD内の autorun.exe を実行します。

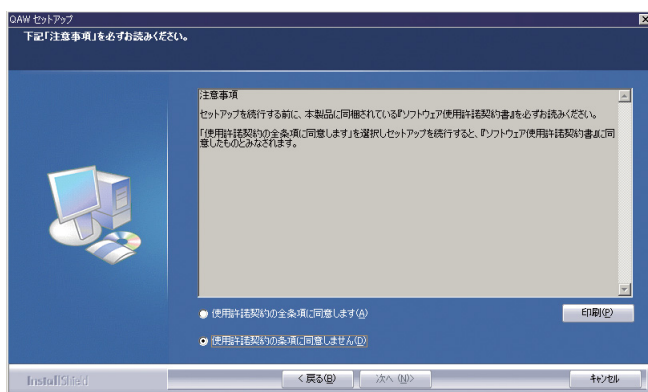
手順6 [Quality Asset Watcher] が選択されていることを確認し、[QAW Server Setup] ボタンをクリックします。

「Quality Asset Watcher の InstallShield Wizard へようこそ」が表示されます。



手順7 [次へ(N)>] ボタンをクリックします。

☞ 「注意事項」が表示されます。



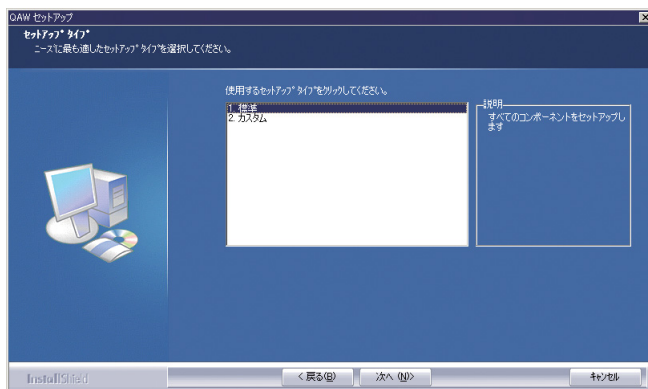
注意：ソフトウェア使用許諾契約書

製品に同梱されている『ソフトウェア使用許諾契約書』は必ずお読みください。

手順8 使用許諾契約の内容を確認し、[使用許諾契約の全条項に同意します (A)] をクリックしてオンにします。

手順9 [次へ(N)>] ボタンをクリックします。

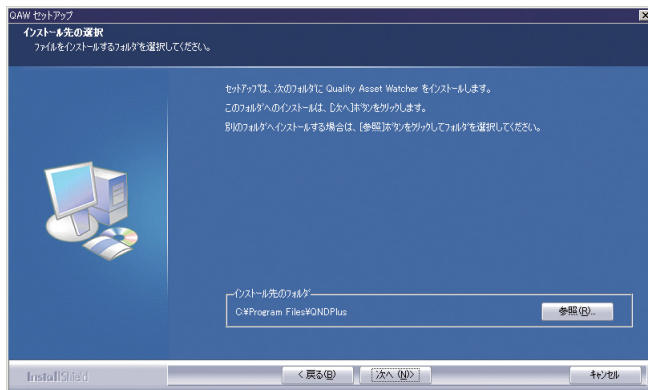
☞ 「セットアップタイプ」が表示されます。



手順10 [1. 標準] を選択し、[次へ] をクリックします。
 セットアップタイプについては、次の表を参考にしてください。

項目	説明
1. 標準	次のコンポーネントがインストールされる ・QNDサーバ ・QAWコンソール ・RCコンソール ・QIVコンソール ・ODBCドライバ ・Viperコンソール
2. カスタム	次のコンポーネントからインストールするものを選択する ・QNDサーバ ・QAWコンソール ・RCコンソール ・QIVコンソール ・ODBCドライバ ・Viperコンソール

☑ 「インストール先の選択」が表示されます。

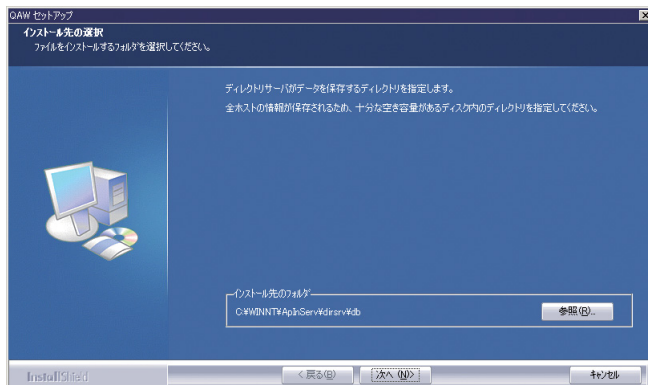


手順11 インストール先のディレクトリを確認して、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

注意 : QND Ver. 9.1 と同じインストール先を選択

インストール先の選択では、必ずQND Ver. 9.1 と同じインストール先を選択してください。
 異なるインストール先を指定すると、正しく乗換を行うことができません。

Application Integrate Serverの☑ 「インストール先の選択」が表示されます。



手順12 Application Integrate Serverのインストール先を確認して、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

注意 : QND Ver. 9.1 と同じインストール先を選択

インストール先の選択では、必ずQND Ver. 9.1と同じインストール先を選択してください。異なるインストール先を指定すると、正しく乗換を行うことができません。

☞ 「サービスのインストール」が表示されます。



手順13 次の表を参考に内容を入力します。

項目	説明
管理ドメイン名	マスターサーバPCがドメイン管理されている場合はドメイン名を入力する (ワークグループの場合は空欄にする)
管理者アカウント名	マスターサーバPCが所属するドメインの管理者権限を有するアカウント名を入力する (ドメイン管理されていない場合はPCの管理者アカウント名を入力する)
管理者パスワード	[管理者アカウント名] のパスワードを入力する

手順14 [OK] ボタンをクリックします。

次の確認メッセージが表示されます。



手順15 [OK] ボタンをクリックします。

☞ 「InstallShield Wizardの完了」が表示されます。



手順16 [完了] ボタンをクリックします。

☞ 「InstallShield Wizardの完了」が閉じます。

手順17 「データのバックアップ」(P.5) でバックアップしておいたファイルのうち、次の2つを元の場所にコピーします。

- %QNDPlus%\bin%\Rulea7.csv
- %QNDPlus%\etc%\multicast.ini

手順18 QIVコンソールを起動して、☑「CSV読み込み設定/集計ディレクトリ設定」の設定を元に戻します。乗換を行うと、QIVの一部の設定がデフォルト設定に戻るためです。

詳細な手順については、『QAW Ver. 3.4 SP1 リファレンス』「VI 4-1.集計ユーティリティの設定」を参照してください。

以上で、マスターサーバのQND Ver. 9.1からQAW Ver. 3.5への乗換は終了です。

4-2 乗換後の確認

本節では、乗換作業の確認について説明します。
インストール完了後、次の点を確認してください。

QAWへの乗換完了を確認

乗換完了は、次の手順で確認します。

手順1 C:\Program Files\QNDPlus%\bin%\UNICODE\jaを開きます。

手順2 [QAWOption.ex_] ファイルが存在することを確認します。
[QAWOption.ex_] ファイルが存在すれば、QAW Ver. 3.5への乗換に成功しています。
以上で、QAWへの乗換確認は終了です。

Application Integrate Serverの起動を確認

Application Integrate Serverの起動の有無は、次の手順で確認します。

手順1 Windowsのスタートメニューから、[すべてのプログラム(P)] - [管理ツール] - [サービス]の順に選択します。
☑「サービス」が表示されます。

手順2 [Application Integrate Server] の状態が[開始]になっているかを確認します。
[開始]になっていれば、起動しています。
以上で、Application Integrate Serverの起動確認は終了です。

QAW関連のプロセス稼働の有無を確認

☑「Windowsタスクマネージャ」を表示させ、[プロセス] タブをクリックします。
次のプロセスが動作中であることを確認してください。

- acpcsrv
- AppServ.exe
- FileServer.exe
- QIVServer
- QNDSVR
- SkipServ
- ViperManageServer.exe

QNDSVRファイルのバージョンが最新であることを確認

QNDサーバのインストールディレクトリ直下にあるQNDSVRファイルのプロパティで、ファイルバージョンが最新のものになっているかを確認してください。

最新のファイルバージョンについては、製品CD内のReadmeを参照してください。

4-3 QAWライセンスの登録

本節では、乗換後のQAWライセンスの登録方法について説明します。
インストール後、QAWのライセンスを登録してください。

注意：QAW コンソールの乗換

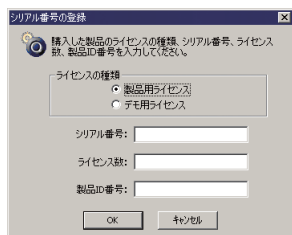
コンソールをマスターサーバとは別のPCにインストールしている場合は、先に「[5-1 コンソールの乗換](#)」(P. 14)を参照し、コンソールの乗換を実施してください。

手順1 QAWコンソールを起動します。

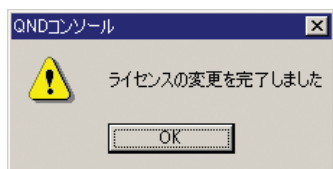
注意：QAW コンソール初回起動時

QAWコンソールの初回起動時は、QAWコンソールに乗換済みであっても、QNDコンソールが表示されます。QAWライセンスの登録後、QAWコンソールに切り替わります。

手順2 メニューバーから、[ファイル(F)] - [ライセンスの変更(L)...] の順に選択します。
☑ 「シリアル番号の登録」が表示されます。



手順3 QAW Ver. 3.5のライセンス情報を [シリアル番号] 欄、[ライセンス数] 欄、[製品ID番号] 欄にそれぞれ入力し、[OK] ボタンをクリックします。
次の確認メッセージが表示されます。



手順4 [OK] ボタンをクリックします。
メッセージが閉じます。
以上で、QAWライセンスの登録は終了です。

5. コンソールの乗換

本章ではコンソールの乗換手順について説明します。
コンソールをQNDサーバPCと別PCで運用している場合は、本章を参照してください。
コンソールをQNDサーバPCと同じPCで運用している場合は、マスターサーバの乗換によって、コンソールの乗換も完了しています。本章をスキップしてください。

注意：コンソール設定

乗換を実施すると、QAW、QIV、RCの各コンソールの設定がデフォルト値にクリアされる場合があります。

コンソールの乗換作業は、次の順序で実行します。

- ・「5-1 コンソールの乗換」(P.14)
- ・「5-2 乗換後の確認」(P.18)

以下、詳述します。

5-1 コンソールの乗換

本節では、コンソールの乗換手順について説明します。

次の手順にしたがって乗換を実行してください。

なお、コンソールの乗換時にViperコンソールを新規インストールするPCには、.NET Framework2.0以上がインストールされている必要があります。

手順1 コンソールをインストールしているPCに管理者アカウントでログオンします。


手順2 QAW Ver. 3.5の製品CDをセットします。

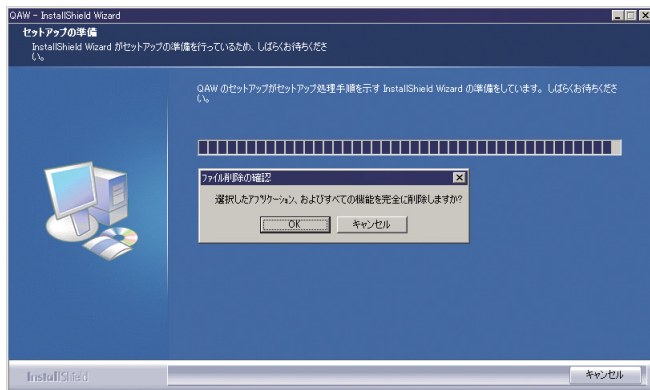
 「Quality Product Menu」が表示されます。

起動されない場合は、製品CD内のautorun.exeを実行します。

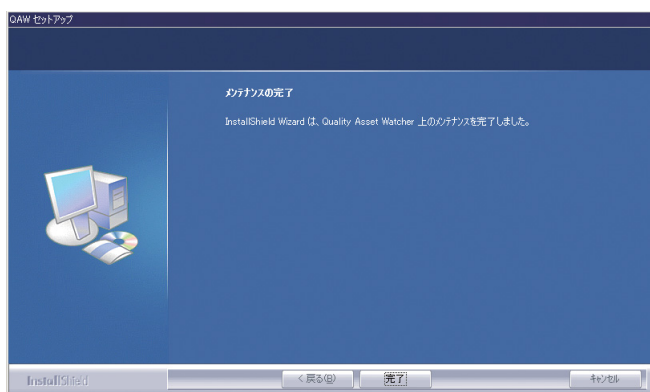
手順3 「Quality Asset Watcher」が選択されていることを確認し、「QAW Server Setup」ボタンをクリックします。



インストーラが起動して  「ファイル削除の確認」が表示されます。

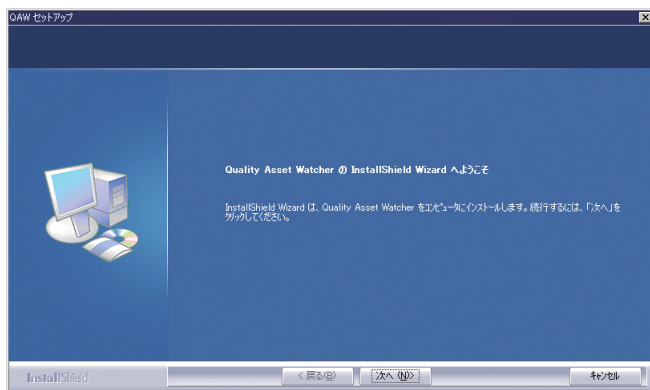


- 手順4 [OK] ボタンをクリックします。
 QND Ver. 9.1のコンソールがアンインストールされ、☑「メンテナンスの完了」が表示されます。

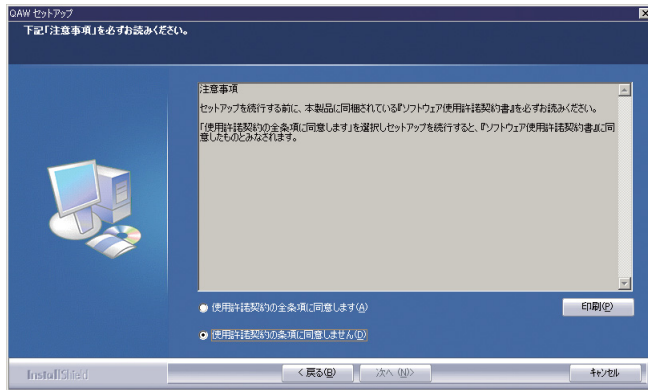


- 手順5 [完了] ボタンをクリックします。
 ☑「メンテナンスの完了」が閉じ、☑「Quality Product Menu」に戻ります。
 表示されない場合は、製品CD内のautorun.exeを実行します。

- 手順6 [Quality Asset Watcher] が選択されていることを確認し、[QAW Server Setup] ボタンをクリックします。
 ☑「Quality Asset WatcherのInstallShield Wizard へようこそ」が表示されます。



- 手順7 [次へ(N)>] ボタンをクリックします。
 ☑「注意事項」が表示されます。

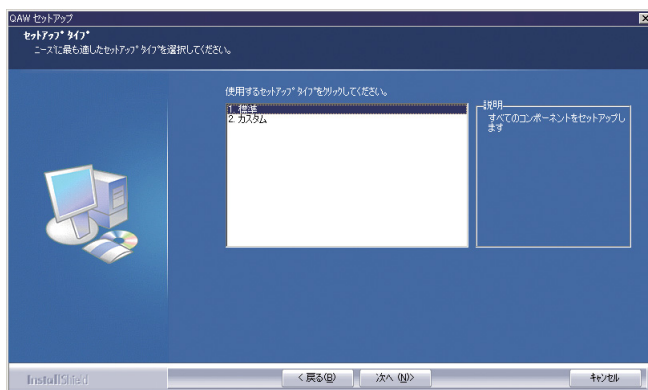


注意：ソフトウェア使用許諾契約書

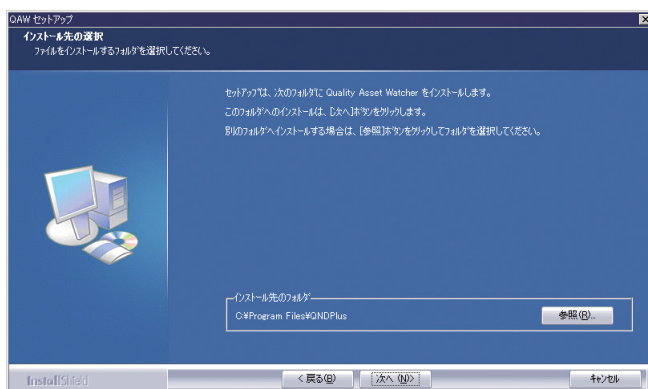
製品に同梱されている『ソフトウェア使用許諾契約書』は必ずお読みください。

手順8 使用許諾契約の内容を確認し、[使用許諾契約の全条項に同意します (A)] をクリックしてオンにします。

手順9 [次へ(N)>] ボタンをクリックします。
 ☐ 「セットアップタイプ」が表示されます。



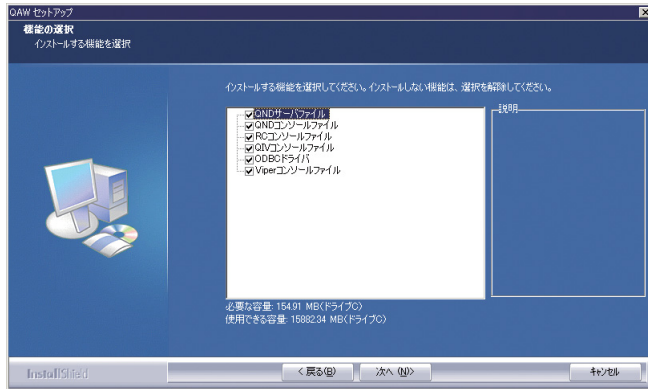
手順10 [2. カスタム] を選択して [次へ(N)>] ボタンをクリックします。
 ☐ 「インストール先の選択」が表示されます。



注意：QND Ver. 9.1 と同じインストール先を選択

インストール先の選択では、必ずQND Ver. 9.1 と同じインストール先を選択してください。異なるインストール先を指定すると、正しく乗換を行うことができません。

- 手順11 インストール先のディレクトリを確認して、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。
 ☞ 「機能の選択」が表示されます。



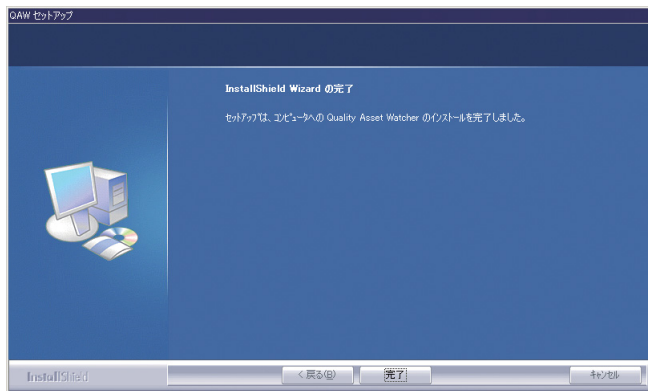
- 手順12 [QNDサーバファイル] をクリックしてチェックを外します。

- 手順13 次の表を参考にインストールする項目にチェックを入れ、[次へ] をクリックします。

項目	インストールされる機能
QNDコンソールファイル	QAWコンソール
RCコンソールファイル	RCコンソール
QIVコンソールファイル	QIVコンソール
ODBCドライバ	ODBCドライバ
Viperコンソールファイル	Viperコンソール

インストールが開始されます。

インストールが終了すると、☞ 「InstallShield Wizardの完了」が表示されます。

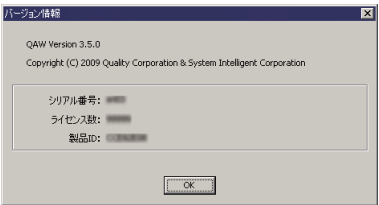


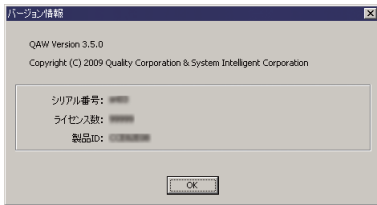
- 手順14 [完了] ボタンをクリックします。
 ☞ 「InstallShield Wizardの完了」が閉じます。

以上で、コンソールのQND Ver. 9.1からQAW Ver. 3.5への乗換は終了です。

5-2 乗換後の確認

本節では、コンソールプログラム乗換後の確認方法について説明します。

QAW コンソールを起動し、メニューバーから、[ヘルプ(H)] - [バージョン情報(A)...] の順に選択すると表示される  「バージョン情報」でQAWのバージョンを確認してください。



[QAW Version] が “3.5.0” であることを確認してください。

以上で、乗換後の確認は終了です。

6. スレーブサーバの乗換

ここでは、スレーブサーバの乗換手順について説明します。

スレーブサーバの乗換は、スレーブサーバプログラムの上書きインストールによって実行します。

注意：マスターサーバとスレーブサーバの乗換

マスターサーバの乗換後、直ちにスレーブサーバの乗換を実行してください。

QNDのスレーブサーバでは、一部の機能が利用できません。

スレーブサーバの乗換作業は、次の順序で実行します。

- ・「[6-1 スレーブサーバの上書きインストール](#)」(P.18)
- ・「[6-2 インストール後の確認](#)」(P.19)

以下、詳述します。

6-1 スレーブサーバの上書きインストール

本節では、スレーブサーバの上書きインストール手順について説明します。


次の手順にしたがって、上書きインストールを実行してください。

注意：プッシュ実行で実行する場合

本手順ではプル実行で説明していますが、プッシュ実行でも可能です。

プッシュ実行でスレーブサーバの乗換を行う場合は、スケジュールの追加時に [エージェントが接続するサーバ名] で、QAW Ver. 3.5への乗換を実施したサーバを指定して、[このサーバをデフォルトサーバにする] にチェックを入れてください。

接続先が正しくないままタスクをプッシュ実行した場合、スレーブサーバの乗換が正しく完了できない場合があります。

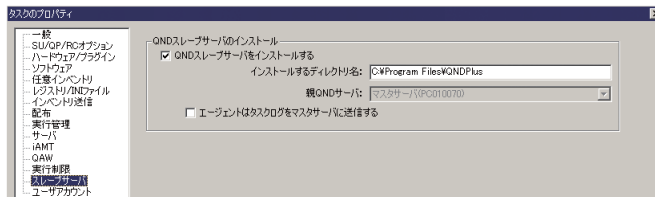
- 手順1 マスターサーバに接続するQAWコンソールのメニューバーから、[タスク(I)] - [タスク作成: 名前のみ(N)>...] の順に選択します。
 「タスクの作成」が表示されます。
- 手順2 [全機能タスク] をクリックしてオンにします。
- 手順3 [タスク名を入力してください]欄に、任意のタスク名を入力して[OK]ボタンをクリックします。
タスク一覧に作成したタスク名が追加されます。

- 手順4 作成したタスクをダブルクリックします。
☞ 「タスクのプロパティ」が表示されます。
- 手順5 表示ツリーから、[スレーブサーバ] をクリックします。
- 手順6 [QNDスレーブサーバをインストールする] をクリックしてチェックを入れます。
- 手順7 [インストールするディレクトリ名] 欄に、現在のスレーブサーバがインストールされているディレクトリ名を指定します。



注意：QND Ver. 9.1 と同じインストール先を選択

スレーブサーバのインストール先は、必ずQND Ver. 9.1と同じ場所を指定してください。異なるインストール先を指定すると、正しく乗換を行うことができません。



- 手順8 [OK] ボタンをクリックします。
☞ 「タスクのプロパティ」が閉じます。
- 手順9 作成したタスクを右クリックして表示されるコンテキストメニューから、[QND エージェントの作成(S)] を選択します。
☞ 「エージェントの作成(S)」が表示されます。
- 手順10 [Windows] をクリックしてチェックを入れ、[作成] ボタンをクリックします。
QNDエージェントが作成されます。
- 手順11 作成したQNDエージェントをスレーブサーバPCでプル実行します。
以上で、スレーブサーバの上書きインストールは終了です。

6-2 インストール後の確認

本節では、インストール後の確認手順について説明します。
スレーブサーバインストール後、次の点を確認してください。

なお、確認前にQAWコンソールの表示を更新してください。

スレーブサーバのサーババージョンを確認

QAWコンソールのホスト一覧の左カラムで、スレーブサーバの [サーババージョン] が最新のものであることを確認してください。

スレーブサーバのサーババージョンについては、Readmeを参照してください。

Application Integrate Serverの起動を確認

Application Integrate Serverの起動の有無は、次の手順で確認します。

- 手順1 Windowsのスタートメニューから、[すべてのプログラム(P)] - [管理ツール] - [サービス] の順に選択します。

☞ 「サービス」が表示されます。

手順2 [Application Integrate Server] の状態が [開始] になっているかを確認します。
[開始] になっていれば、起動しています。

以上で、Application Integrate Serverの起動確認は終了です。

スレーブサーバとマスターサーバの通信状態を確認

QAWコンソールから、スレーブサーバとの通信状態を確認することが可能です。
グループ/フィルター一覧で、スレーブサーバ/レプリケーションサーバが水色で表示されていれば、マスターサーバと通信可能です。

水色で表示されない場合は、スレーブサーバのサービスが稼働しているか確認してください。

スレーブサーバに接続可能か否かを確認

QAWコンソールがスレーブサーバに接続できるかを確認します。

グループ/フィルター一覧から、スレーブサーバを右クリックして表示されるコンテキストメニューから、[コンソールで接続(C)] を選択します。

QAWコンソールがスレーブサーバに接続され、起動することを確認してください。

接続できない場合は、スレーブサーバのサービスが稼働しているかを確認してください。

スレーブサーバ配下のホストにタスク実行が可能かを確認

スレーブサーバ配下のホストにタスクが実行できるかを確認します。

タスク実行については、『QAW Ver. 3.4 SP1 ー運用編ー』「I 7-3. タスクを実行する」を参照してください。

スレーブサーバのデータ転送の確認と再開

「3. 乗換前の準備作業」(P.3) で、停止していたスレーブサーバのデータ転送を再開します。
スレーブサーバのデータ転送の確認と再開は次の手順で行います。

手順1 グループ/フィルター一覧から、スレーブサーバを右クリックして表示されるコンテキストメニューから、[プロパティ (P)...] を選択します。

☞ 「サーバ設定」が表示されます。

手順2 [収集されたインベントリの転送スケジュール] の設定を元に戻します。

手順3 [OK] ボタンをクリックします。

以上で、スレーブサーバのデータ転送の再開は終了です。

7. QNDホストの乗換

本章ではQNDホストの乗換方法について説明します。

QNDホストの乗換作業は、次の順序で実行します。

- ・「7-1 クライアントプログラムのインストール」(P. 21)
- ・「7-2 インストール後の確認」(P. 22)

以下、詳述します。

7-1 クライアントプログラムのインストール

QAW Ver. 3.5のQNDサーバから任意のタスクを実行すると、QNDホストのクライアントプログラムが自動的にバージョンアップされます。

ただし、次のQNDホストは自動バージョンアップの対象外とします。

- ・OSがWindows NT4で、SUがインストールされていない
- ・タスクが、スタンドアロン、バックグラウンド、メール対応QPオプションで実行されている

OSがWindows NT4の場合でも、SUをインストールすれば、任意のタスク実行でクライアントプログラムがバージョンアップされます。

ここでは、タスクを作成してQNDホストに実行する手順を説明します。

その他のQNDホストについては、新規インストールと同様の手順でクライアントプログラムを上書きインストールしてください。

クライアントプログラムのインストール方法については、『QAW Ver. 3.4 SP1 ー導入編ー』「Ⅲ ホストの導入」を参照してください。

手順1 メニューバーから、[タスク(I)] - [タスク作成:名前のみ(N)...] の順に選択します。

☑ 「タスクの作成」が表示されます。

手順2 [全機能タスク] をクリックしてオンにします。

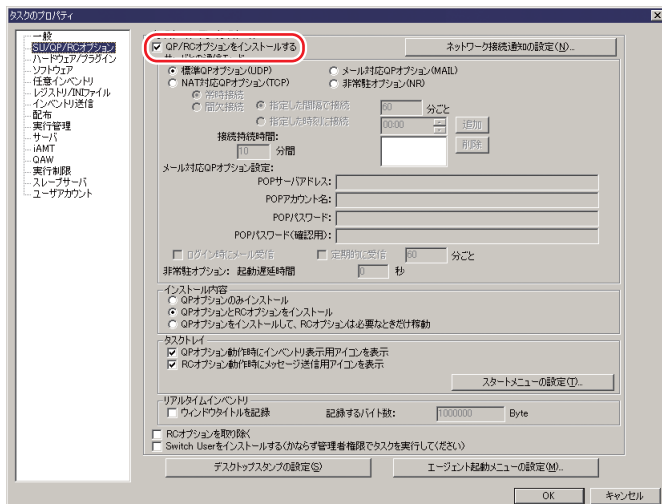
手順3 [タスク名を入力してください]欄に、任意のタスク名を入力して[OK]ボタンをクリックします。
タスク一覧に作成したタスク名が追加されます。

手順4 作成したタスクをダブルクリックします。

☑ 「タスクのプロパティ」が表示されます。

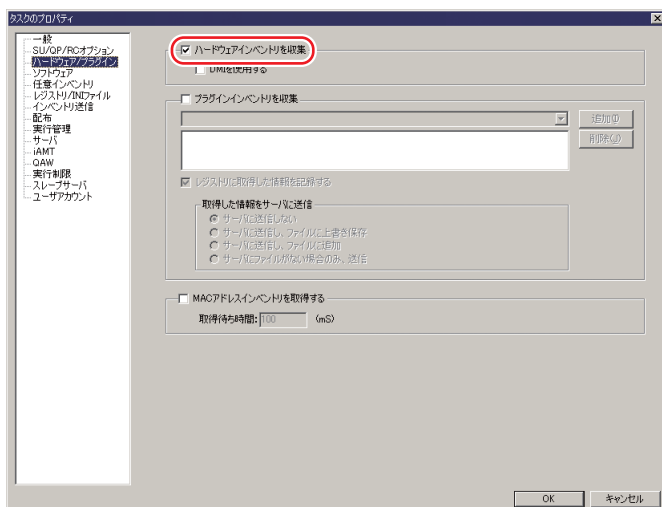
手順5 表示ツリーから、[SU/QP/RCオプション] をクリックします。

手順6 [QP/RCオプションをインストールする] をクリックしてチェックを入れます。



手順7 表示ツリーから、「ハードウェア/プラグイン」をクリックします。

手順8 「ハードウェアインベントリを収集」をクリックしてチェックを入れます。



手順9 [OK] ボタンをクリックします。

☐ 「タスクのプロパティ」が閉じます。

手順10 QNDホストに対し、タスクをプル実行またはプッシュ実行します。

以上で、QNDホストの乗換は終了です。

7-2 インストール後の確認

本節では、インストール後の確認方法について説明します。

QAWOption.exeが存在することを確認することで、クライアントプログラムの上書きインストールが完了していることを確認できます。

次の手順にしたがって、確認してください。

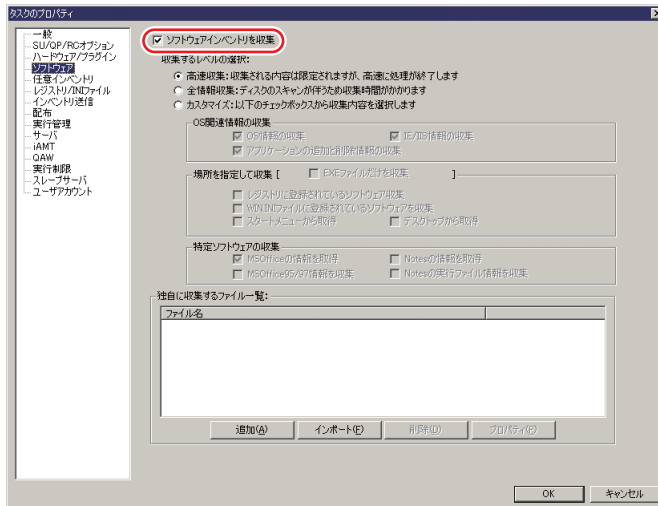
手順1 新規タスクを作成します。

手順2 作成したタスクをダブルクリックします。

☐ 「タスクのプロパティ」が表示されます。

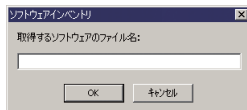
手順3 表示ツリーから、「ソフトウェア」をクリックします。

手順4 「ソフトウェアインベントリを収集」をクリックしてチェックを入れます。



手順5 「独自に収集するファイル一覧」の「追加(A)」ボタンをクリックします。

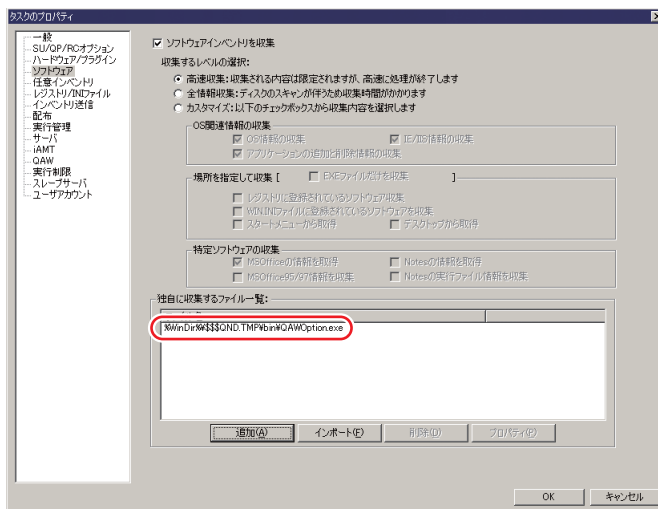
☐ 「ソフトウェアインベントリ」が表示されます。



手順6 「取得するソフトウェアのファイル名」欄に、“%WinDir%¥\$¥\$QND.TMP¥bin¥QAWOption.exe” と入力します。

手順7 「OK」ボタンをクリックします。

「独自に収集するファイル一覧」に登録されます。



手順8 「OK」ボタンをクリックします。

☐ 「タスクのプロパティ」が閉じます。

手順9 乗換を実行済みのQNDホストに対して、タスクをプル実行またはプッシュ実行します。

手順10 QAWコンソールで、収集したソフトウェアインベントリを確認します。
ソフトウェアインベントリにQAWOption.exeが存在することを確認してください。
以上で、インストール後の確認は終了です。

8. 付録

8-1 乗換が適切に実行されていないとき

乗換が適切に実行されていないとき、以下のような問題が発生します。
次の表にある問題が発生した場合は、表に記載されている原因を参考に、対策を講じてください。

発生した問題	原因
QAWコンソールをスレーブサーバに接続した際に、コンソールのユーザインターフェースが、QNDのユーザインターフェースになっている	マスターサーバをQND Ver. 9.1からQAW Ver. 3.5に乗り換えた際、マスターサーバとスレーブサーバが通信できる状態であれば、スレーブサーバのライセンスもQAWに変更される スレーブサーバがマスターサーバと通信できない状態では、スレーブサーバのライセンスは変更されず、QNDのライセンスが使用される この状態でコンソールからサーバ接続した場合に、マスターサーバはQAWのユーザインターフェース表示でも、スレーブサーバは使用されているライセンス (QND or QAW) のUI表示となる
QNDホストで、QAW固有の機能（リアルタイムインベントリやアプリケーションDBを利用したソフトウェアの起動制限など）が動作しない また、正常動作しないにも関わらず、ログにエラー等が出力されない	マスターサーバ、スレーブサーバ、コンソールの乗換が完了しているが、QNDホストの乗換は未実行
QND Ver. 9.1のスレーブ配下のQNDホストをQAW Ver. 3.5に乗換できない (QNDログに「QHostID.dll」「QAWHooks.dll」「QAWOption.exe」の転送エラーのログが出力される)	スレーブサーバの乗換が完了していない スレーブサーバPCが乗換前の場合は、スレーブサーバ配下のQNDホストは、QAW Ver. 3.5への乗換を実行できない。スレーブサーバにQNDホストの乗換を実行するために必要なQAW特有のファイルが存在しないため
スレーブサーバPCに「同期：ファイル等」を実行した場合に、スレーブサーバプログラムをインストールするタスクを実行していないにも関わらず、マスターサーバPCからスレーブサーバPCへQAW関連のファイルが自動的にコピーされる	マスターサーバ、コンソールの乗換が完了しているが、スレーブサーバの乗換が完了していない
RCオプションのサービスが停止している	QND Ver. 9.1で、RCオプションがインストールされていたQNDホストに対して、QAW Ver. 3.5への乗換実行後にRCオプションのインストールを実行すると、RCオプションのサービスが停止する場合がある このような場合でも、サービスを手動で起動するか、QNDホストの再起動を行うことで復帰可能